

2026年9月9日

各 位

会 社 名 株式会社ジャパンディスプレイ
代表者名 代表執行役社長 CEO 明間 純
(コード番号 6740 東証プライム)
問合せ先 執行役員 CFO 平林 健
(TEL. 03-6732-8100)

2026 日本パッケージングコンテスト「工業包装部門賞」を共同受賞

当社は、SBS東芝ロジスティクス株式会社及び日本包材株式会社と共同開発した薄型ガラスパネル向け梱包仕様が、環境負荷低減及び物流効率化に貢献する取組みとして評価され、公益社団法人日本包装技術協会が主催する「2026 日本パッケージングコンテスト」において「工業包装部門賞」を共同受賞しましたので、お知らせいたします。

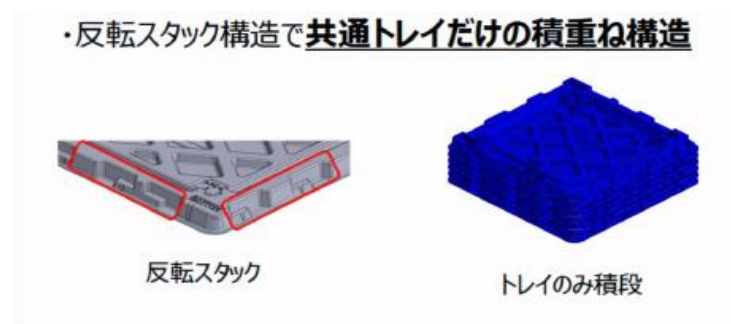
1. 受賞のポイント

従来、薄型ガラスパネルの物流・保管・製造工程では、用途や工程ごとに異なるトレイを使い分ける必要があり、トレイの入れ替え作業や使用枚数の多さが課題となっていました。今回受賞した梱包設計はこれらの課題に対応し、従来3種類必要だったトレイを1種類に共通化することでトレイの枚数を約1/3に削減するとともに、異なる種類のトレイへの入れ替え作業をなくすなどして、作業の効率化を実現したものです。

2. 共通化トレイの設計コンセプト

(1) 反転スタック

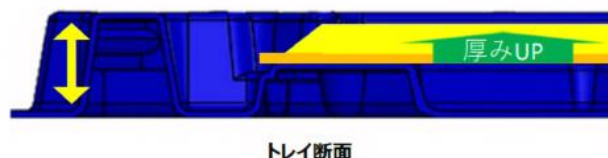
トレイを水平方向に180°回転させて積み重ねられるスタック構造を採用したことにより、専用の蓋を用意することなく1種類の共通トレイのみで積み重ねることを可能にしました。その結果、簡易包装が可能となることで作業性が向上し、製造現場の負荷低減につながりました。



(2) 深いポケット

製造工程で部材の追加・貼付等により増加する製品厚みに対応するため、深いポケット構造を採用しました。これにより、輸送トレイを顧客の製造工程内でも使用できるため、トレイ交換が不要となり、作業効率の向上及び環境負荷の低減を実現しました。

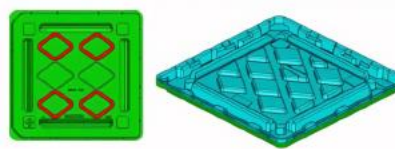
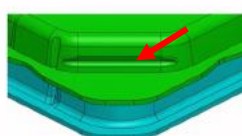
顧客製造工程
・製品の厚み変化に対応できる深いポケットを作成



(3) コーナーロックとひし形構造

長距離輸送時の衝撃による蓋の脱落を防止するだけでなく、保管時の高い積載安定性も確保するため、蓋同士のコーナー部をロックする機構を採用しました。また、蓋とトレイの噛み合わせ部分にひし形構造を採用することで、強度の向上にも配慮しました。

輸出、保管
・輸出、保管専用フタ同士をロック機構にて輸出負荷対策
・トレイとフタの嵌合形状はひし形形状で強度UPに貢献



3. 共通化トレイによる改善効果

今回の共通化トレイの採用により、従来は工程ごとに必要であった複数種類のトレイを削減し、包装部材の使用量を抑制するとともに、工程間でのトレイ入れ替え作業を不要としました。これにより、物流・保管・製造の各工程における作業負荷を低減し、サプライチェーン全体の作業効率向上を実現しています。

当社は今後も、パートナー企業との協業を通じて、物流及び製造工程における課題解決に取り組むとともに、環境負荷低減、物流品質向上、サプライチェーン全体の効率化に資する包装技術・物流ソリューションの開発を推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【日本パッケージングコンテストとは】

日本パッケージングコンテストは、公益社団法人日本包装技術協会（JPI）が主催する、日本を代表する包装技術・包装設計のコンテストです。包装材料、構造設計、保護性能、環境対応、デザイン、輸送包装、ロジスティクス等、包装に関わる幅広い観点から総合的に審査され、その年の優れたパッケージング及び包装技術を表彰しています。入賞作品には優れた包装技術の証である「GP マーク」の使用が認められるほか、世界包装機構（WPO）が主催する「ワールドスターコンテスト」への出品資格が付与されます。日本国内のみならず、世界に向けて日本の包装技術の優位性を発信する重要なコンテストとして高い評価を得ています。